

宅建試験に失敗する人々の共通点 と成功への道



宅建合格パートナー

LETOS

Lead To Success

はじめに

こんにちは、宅建通信レトスの小野です。弊社レトスは、2011年にレトスを開業し、「個別指導」を行い、累計1000名以上の方を指導してきました。おかげ様で、4年連続で70%超の合格率を出した実績を出したこともございます。これは、「個別指導」が「暗記に頼らない理解学習」と「1対1の丁寧な計画管理サービス」で無理なく、無駄なく、悩むことなく受講者が勉強できるような実践できるようにしているからです。この個別指導で教えているノウハウの一部を今回共有させていただきます。

宅建試験は、決して簡単なものではありませんが、正しい方法で学習すれば合格は可能です。本書では、宅建試験に挑戦しても合格できなかった方々に共通する失敗要因を解説し、今後の学習に活かせるアドバイスを提供します。これを読むことで、勉強の仕方を見直し、宅建合格を目指していただければと思います。

宅建試験の合格率は例年15～17%前後ですが、これは合格するための基準点に達していない方が多いことを意味しています。試験そのものの難易度はもちろんのこと、学習方法の不備が大きな要因です。私自身、毎年多くの受験生をサポートしてきましたが、合格者と不合格者の間には明確な違いがあります。それが、次に挙げる3つのポイントです。



宅建レトス 小野

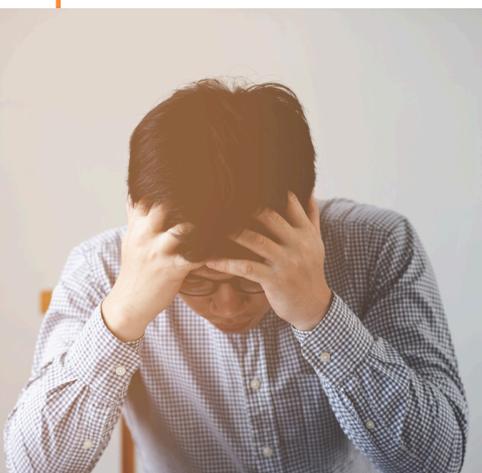
宅建試験に落ちる人々の共通点

1. 問題演習の量が不足している

宅建試験に合格するために必要な問題演習の量は、合格者と不合格者と大きく異なります。合格者の多くは、最低でも過去10年分の過去問を解き、さらに予想模試を3回以上実施しています。なぜこれが重要かというと、過去問を解くことで試験の出題傾向を把握できるからです。宅建試験の問題は、毎年一定の傾向があり、過去問から学べるものが非常に多いのです。

一方、不合格者は過去問を5年分や3年分しか解いていないことが多いです。確かに、時間が限られている中で10年分の過去問を解くのは大変かもしれません。しかし、過去問を十分にこなしていないと、試験本番で出題される問題に対して十分な対応力が身に付きません。

また、ただ問題を解くだけでなく、「正答率の低い問題」や「間違えた問題」については、しっかりと理解するまで何度も復習することが重要です。過去問は「解いて終わり」ではなく、問題の解き方や出題意図を深く理解するためのツールと捉えることが大切です。



宅建試験に落ちる人々の共通点

2. 復習の回数が足りない

復習不足も宅建試験に落ちる大きな原因です。多くの受験生が、勉強内容を1回か2回しか復習しておらず、結果として知識が定着していません。私自身もそうですが、どれだけ頭が良くても、一度や二度の復習で全ての知識を覚えることは難しいです。特に宅建試験では、幅広い範囲の知識を問われるため、復習の回数が少ないと確実に落ちてしまいます。

復習は、単にもう一度同じ内容を見直すだけではありません。自分が「どの部分で理解が浅いのか」、「どの問題でミスをしやすいのか」を把握し、それに基づいて重点的に復習することが必要です。たとえば、過去問を3回解くことで、自分の苦手な分野が見えてきます。その部分に関しては、さらに追加の参考書や解説書を読み、深く理解することが重要です。

多くの受験生が復習の計画を立てず、ただ問題を解くだけで満足してしまうのが現状です。しかし、合格者は「復習こそが学習の本質」と理解しています。最低でも3回、理想的には5回以上復習することで、知識がしっかりと定着し、試験本番で応用力が発揮できるようになります。



宅建試験に落ちる 人々の共通点

3. 教材に頼りすぎる

テキストを読むことは、確かに知識を身につけるための第一歩です。しかし、宅建試験の問題は、単にテキストの内容をそのまま問うわけではなく、法的な概念や条文を事例に応用する力が問われます。これが、テキストだけに依存する学習方法では限界がある理由です。単純な暗記では、問題の出題形式や応用問題に対応できず、結果として合格に至らない可能性が高くなります。

例えば、民法の分野では、テキストを読んでいるだけでは、実際の問題で問われる具体的なケースや判例の解釈を理解するのが難しいです。また、複雑な法令上の制限に関する知識も、単に条文を覚えるだけではなく、具体的な場面でその法律がどのように適用されるのかを理解する必要があります。

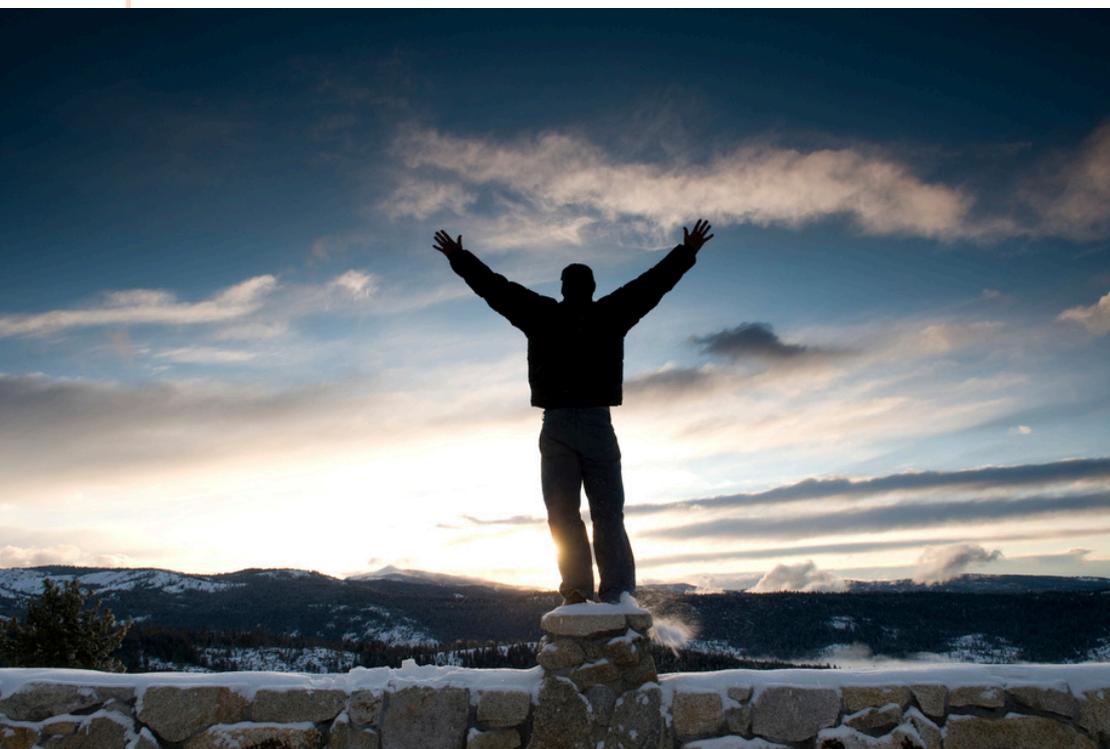
ある受験生がテキストを何度も読み返していたにもかかわらず、過去問を解いてみると、思うように正解できなかったケースがあります。これは、教材の内容を「知っている」状態と、問題を「解ける」状態が異なることを意味します。宅建試験に合格するためには、テキストの内容を理解するだけでは不十分であり、問題の文脈でその知識を実際に活用できる力を養う必要があります。



合格するための 学習方法

宅建試験対策において、過去問は最も効果的な学習ツールの一つです。10年分の過去問を徹底的に解くことで、出題傾向を把握し、重要なポイントを学習することができます。過去問を使った学習は、単に答えを覚えるだけでなく、問題の意図や出題者が何を問おうとしているのかを理解することが大切です。ここでは、過去問を効果的に活用する方法をより具体的に解説します。

1. 過去問を徹底的に解く
2. 復習回数を増やす
3. 幅広い教材を活用する



合格するための 学習方法

1. 過去問を徹底的に解く

宅建試験対策において、過去問は最も効果的な学習ツールの一つです。10年分の過去問を徹底的に解くことで、出題傾向を把握し、重要なポイントを学習することができます。過去問を使った学習は、単に答えを覚えるだけでなく、問題の意図や出題者が何を問おうとしているのかを理解することが大切です。ここでは、過去問を効果的に活用する方法をより具体的に解説します。

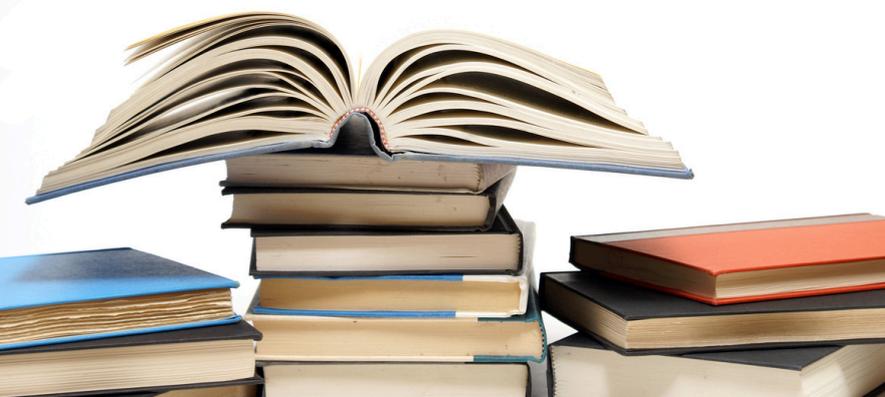
- ① 10年分の過去問を解く意義
- ② 問題を解くだけでなく「出題の意図」を読み解く
- ③ 過去問を分析して出題パターンを見つける
- ④ 「過去問の解き直し」で応用力を高める
- ⑤ 予想問題・模擬試験を活用して知識の幅を広げる

合格するための 学習方法

1. 過去問を徹底的に解く

① 10年分の過去問を解く意義

宅建試験対策において、過去問は最も効果的な学習ツールの一つです。10年分の過去問を徹底的に解くことで、出題傾向を把握し、重要なポイントを学習することができます。過去問を使った学習は、単に答えを覚えるだけでなく、問題の意図や出題者が何を問おうとしているのかを理解することが大切です。ここでは、過去問を効果的に活用する方法をより具体的に解説します。



合格するための 学習方法



1. 過去問を徹底的に解く

② 問題を解くだけでなく 「出題の意図」を読み解く

過去問を解く際、ただ正解を覚えるのではなく、出題者の意図を読み解くことが非常に重要です。例えば、「この問題から何を理解しているのかを問うているのか」「どのポイントをひっかけようとしているのか」を理解することで、より深い理解が得られます。

宅建試験は単なる暗記試験ではなく、知識の応用が問われることが多いため、出題の背景にある意図や法的な文脈を理解することが必要です。特に権利関係や宅建業法では、法的な条文が具体的な事例にどう適用されるかを理解することが大切です。解説書や条文集を活用しながら、なぜその答えが正解なのかを深掘りしていくことで、知識が定着し、応用力が高まります。

例えば、借地借家法に関する問題では、単に条文を覚えるだけではなく、その法律がどのような背景や目的で制定されたのかを理解することで、類似した問題に対応できるようになります。また、宅建業法の問題でも、試験では実務に基づいた問題が多く出題されるため、どのようにその法律が実際に運用されているかを理解することが重要です。

合格するための 学習方法



1. 過去問を徹底的に解く

③ 過去問を分析して 出題パターンを見つける

過去問演習を行う際に意識すべきポイントは、出題パターンを見つけることです。宅建試験では、同じテーマが異なる形式で繰り返し出題される傾向があり、これを把握することで、効率的な学習が可能になります。たとえば、権利関係では先ほどもお伝えをした「民法の相続や借地借家法、区分所有法、不動産登記法」だけでなく「債権譲渡」といったテーマが頻繁に出題され、宅建業法では「重要事項の説明」や「免許制度」だけでなく、「営業保証金や保証協会」も毎年必ず問われます。これらのテーマに関しては、何度も出題されることが予想されるため、繰り返し復習し、確実に正解できるようにしておく必要があります。

また、問題形式も重要です。例えば、「正しいものを選ぶ」「誤っているものを選ぶ」など、選択肢の提示方法が異なることがあります。こうした形式の違いに慣れることで、試験本番でも混乱せずに対応できるようになります。

合格するための 学習方法



1. 過去問を徹底的に解く

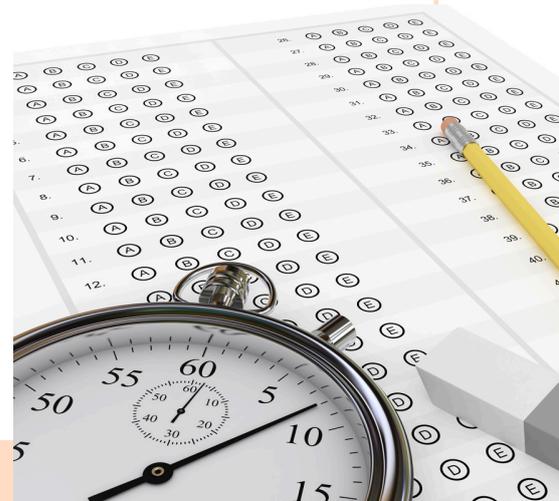
④ 「過去問の解き直し」で応用力を高める

過去問を一度解いて終わりにするのではなく、解き直しを行うことでさらに応用力を高めることができます。特に、1回目に間違えた問題は、なぜ間違えたのかを分析し、再度挑戦することが重要です。「理解不足だった点」や「勘違いしていたポイント」を明確にすることで、同じ間違いを繰り返さないようにしましょう。

解き直しを行う際は、ただ同じ問題を解くだけではなく、関連する知識を総合的に見直すことが大切です。たとえば、宅建業法の重要事項説明に関する問題であれば、他の条文や関連する法律との関係も再確認し、理解を深めていくことが求められます。問題を解きながらテキストに戻って調べるといったサイクルを繰り返すことで、知識がより深く定着します。

さらに、間違えた問題だけでなく、正解した問題も解き直しの対象にすることが有効です。正解したとしても、なぜその答えが正しいのか、他の選択肢がなぜ誤りなのかを確認し、完全に理解することが重要です。これにより、問題の理解度が一層深まり、類似した問題に対しても自信を持って対応できるようになります。

合格するための 学習方法



1. 過去問を徹底的に解く

⑤ 予想問題・模擬試験を活用して 知識の幅を広げる

過去問だけでなく、模擬試験や予想問題も積極的に活用しましょう。模擬試験は、実際の試験と同じ形式で行うことで、試験当日の時間配分や問題の解き方をシミュレーションすることができます。また、予想問題では、最新の法改正や出題傾向に基づいた問題が出題されるため、過去問だけではカバーできない部分を補強することが可能です。

予備校が提供する模擬試験や市販の予想問題集を使いながら、過去問演習と合わせて実力を確認しましょう。模擬試験を解いた後は、過去問と同様に解説をじっくり読み込み、出題意図や背景をしっかりと理解することが大切です。また、模擬試験では本番と同様に時間制限の中で解答するため、試験当日のペース配分を練習することも重要です。

合格するための 学習方法

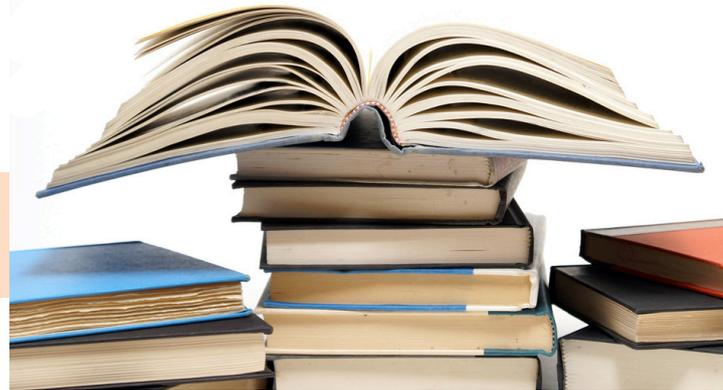
2. 復習回数を増やす

復習は、学習内容を定着させ、合格に繋げるための最も重要なステップです。宅建試験の範囲は非常に広く、民法、宅建業法、法令上の制限、税制など、どの分野も軽視できません。特に宅建試験のような多岐にわたる内容を扱う試験では、1回や2回の復習で知識をしっかりと身に付けるのは難しく、復習の回数が少ないと、知識が頭の中で曖昧になり、試験本番で役立たないことが多いです。

- ① 復習の重要性と具体的な方法
- ② 間隔を空けた復習のサイクル
- ③ ミスを財産に変える「間違いノート」
- ④ メンタルとモチベーションの維持

合格するための 学習方法

2. 復習回数を増やす



① 復習の重要性と具体的な方法

まず、復習すること自体に大きな意味があります。記憶は時間とともに薄れていきますが、これを補うのが「定期的な復習」です。復習は1回だけではなく、3回、4回、そして5回と回数を重ねることで、知識が定着し、応用力も高まります。例えば、初めて問題を解いたときに間違えた箇所は特に注意が必要です。「どの部分で間違えたのか」「理解不足だった点はどこか」を徹底的に分析し、その部分を集中的に復習することが効果的です。

具体的な復習方法としては、まず過去問を解き、その結果に基づいて、どの分野が弱点なのかを把握します。間違えた問題については、解説を読み込んだ上で、関連するテキストや参考書を見直し、なぜその解答が正しいのか誤りなのか、どのような理論が背後にあるのかを理解することが大切です。また、似たような問題を繰り返し解くことで、特定のパターンに対する反射的な解答力も養われます。

合格するための 学習方法

2. 復習回数を増やす



② 間隔を空けた復習のサイクル

さらに、復習は計画的に行うことが成功への鍵です。例えば、1週間に1回のペースで進捗を確認し、その際に解いた問題や学んだ内容を復習します。そして、1ヶ月後には、再度その内容を確認するというサイクルを作ることによって、知識の定着度が一層向上します。この「時間を空けた復習」は、心理学的にも効果があるとされており、短期記憶から長期記憶に知識を移行させるためには非常に効果的です。

また、復習を「過去問を解き直す」だけに留めず、解説や関連する問題にも目を通すことが重要です。例えば、宅建業法に関する過去問を解いた後に、その内容に関連する法令上の制限や税制の問題も合わせて復習することで、知識がより深まります。

合格するための 学習方法



2. 復習回数を増やす

③ ミスを財産に変える「間違いノート」

時間がある方に私が推奨しているのは、「間違いノート」を作ることです。これは、自分が間違えた問題や、理解が不十分だった内容を一つ一つ書き出しておくノートです。このノートには、どの問題でどのように間違えたのか、その原因は何だったのか、そしてどう対処すべきかを明確に記載します。

例えば、「宅建業法における一般媒介契約と専任媒介契約の違いを表にまとめる」等して、混乱している部分などを整理して書き出します。そして、その後に復習する際には、このノートを見返しながらか、何度も同じ間違いを繰り返さないように心がけます。こうした記録を続けることで、復習の際に自分がどの分野に弱点があるのかをすぐに把握でき、効率的に学習が進むのです。

合格するための 学習方法

2. 復習回数を増やす

④ メンタルとモチベーションの維持

復習は単に知識を強化するだけでなく、メンタル面でも重要な役割を果たします。特に、過去問で何度も間違えると、「自分には宅建の勉強が向いていないのではないか」と感じることもあるかもしれません。

しかし、そこで諦めるのではなく、間違いを次のステップへと繋げることで、モチベーションを維持することができます。復習回数が増えるほど、問題に対する自信もつきますので、着実に進歩していることを実感できるでしょう。



合格するための 学習方法

3. 幅広い教材を活用する

宅建試験に合格するためには、宅建試験用の教材だけでなく、より広範な資料や専門的な情報源を活用することが非常に重要です。特に、権利関係や法令上の制限、税制など、試験範囲の中でも難解な分野に関しては、教材だけでは理解が不十分なことがあります。こうした分野では、試験対策用の参考書やテキストを補完する形で、専門書や信頼性の高いウェブサイトからの情報を積極的に取り入れることが求められます。

- ① 法律の深い理解が求められる「権利関係」
- ② 法令上の制限や税制関連の正確な情報
- ③ 多角的な学習アプローチ

合格するための 学習方法

3. 幅広い教材を活用する



① 法律の深い理解が求められる「権利関係」

権利関係は宅建試験の中でも特に出題範囲が広く、法律知識が不可欠です。市販の教材や予備校で配布される資料は、確かにポイントを押さえた内容にはなっていますが、詳細な解説が不足している場合もあります。特に民法や借地借家法、不動産登記法などの分野では、実際の法律の運用を深く理解していないと、応用問題でつまづくことがあります。

こうした部分を補うために、弁護士や法律事務所が運営するウェブサイトや法曹界の専門書を参照することをお勧めします。例えば、弁護士ドットコムなどの法律に関する記事やQ&Aを参考にすると、具体的な事例をもとに法律の実際の運用を学ぶことができ、知識の応用力が高まります。また、「裁判所の裁判例検索」を利用して、過去の判例や解釈を調べることも効果的です。判例の分析や具体例を学ぶことで、試験での出題形式に慣れ、より実践的な知識を身に付けることができます。

合格するための 学習方法



3. 幅広い教材を活用する

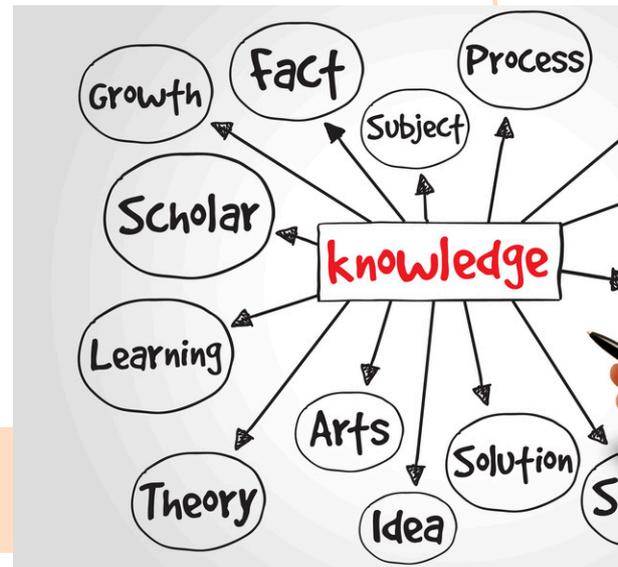
② 法令上の制限や税制関連の正確な情報

法令上の制限に関しても、教材では細かい法改正や最新の施行令に追いついていないことがあります。この分野は、国土交通省や地方自治体のウェブサイトで公開されている法令資料やガイドラインを直接参照するのが効果的です。これにより教材にはない最新の法律変更や行政の方針を理解でき、試験対策としても役立ちます。

税制に関しては、国税庁のウェブサイトや税理士の監修する資料を活用しましょう。特に、宅建試験では不動産取得税や譲渡所得に関する税務知識が問われるため、国税庁が提供する解説資料や申告ガイドは非常に有用です。これらの情報は、試験用の教材だけではカバーしきれない実務的な知識を得るのに最適です。

合格するための 学習方法

3. 幅広い教材を活用する



③ 多角的な学習アプローチ

幅広い情報源から知識を得ることで、試験問題の表層的な知識にとどまらず、深い理解が得られます。例えば、権利関係で登記の重要性を理解する際には、実際の不動産登記簿を見ながら、どのように登記がなされているかを確認するのも良いでしょう。また、不動産会社のウェブサイトや、不動産関連のブログなども参考にすると、実務に基づく知識を身につけられます。これらの情報を組み合わせて学ぶことで、宅建試験に出題される応用問題にも対応できるようになります。

さらに、法律や税務に関する動画コンテンツも活用しましょう。特に、YouTubeやオンライン講座では、専門家が分かりやすく解説しているものが多く、視覚的に学べるので効果的です。動画を見ながら関連する法律や条文を確認することで、理解が深まります。

最後に



宅建レトス 小野

私たちレトスが行っている個別指導は、

1. 忙しくて自信がない
2. 暗記が苦手
3. 計画を立てられない

これらの課題をお持ちの方が、「記に頼らない理解学習」と「ワン・トゥ・ワンの丁寧な進捗管理サポート」を通じて無理なく・無駄なく、悩むことなく宅建合格を勝ち取るために生まれました。

直接、私が受講者様とメールのやり取りを行い、回答・解説を行っています。

中卒で勉強が苦手でも、仕事や育児、介護で忙しくても、高齢になって暗記力が落ちている方でも安心してください。

そのような方も毎年合格していただいております。

勉強の仕方を間違えなければ、宅建試験は一発で合格できます。

私にお任せください！

あなたに宅建合格していただく自信があります！

一緒に勉強して次の試験で宅建合格しましょう！

そして、一緒に喜びましょう！

あなたの受講をお待ちしています。



> 個別指導の概要はこちら <

(上記をクリックすると概要をご覧いただけます)

弊社レトスは、平成23年から宅建試験専門の個別指導を行っています。

その他に、「行政書士試験の個別指導」、「賃貸管理士試験の個別指導」も行っています。

資格試験を取得するための勉強法のノウハウを弊社は持っています。

このノウハウをぜひ、あなたにもお伝えをして、宅建取得があなたの人生を大きく変えるきっかけとなることを願っています。



Copyright (C) gyosyojuku All Rights Reserved.